

国士館大学創設六〇年の節目を迎えて

国士館史資料室室長 佐々 博雄

「平成」最後の年度となる本年度は、戦後、本学が大学を創設して六〇年の節目にあたる。

一九五八（昭和三三）年四月、国士館大学の創設に際しては、従来の短期大学体育科を発展させ、体育学部を設けた。大学はその後、政経・工・政経二部・法・文の各学部を相次いで設置し、また21世紀アジア学部、経営学部を加えて、現在は七学部、大学院一〇研究科となり、高等学校、中学校をも擁する総合学園に至っている。また本年度は、世田谷・町田・多摩のキャンパスに加えて、町田市野津田に取得した「国士館楓の杜キャンパス」の整備が進み、去る十一月一日にグラウンド起工式を実施するなど、学園施設の充実にも努めている。

国士館史資料室では、例年、父母懇談会・オープンキャンパス・学園祭の行事に際して、国士館大講堂で歴史展示を実施しているが、二〇一七年、大講堂が国登録有形文化財（建造物）に登録されたことから、本年度は東京都の「東京文化財ウィーク」に参加し、大講堂の特別公開とあわせて企画展示を行った。また、地元世田谷の若林町会主催「若林歴史講演会」への協力は、本年度で五回目となり、世田谷地域への協力も継続している。一方で『国士館百年史 通史編』の編纂は、予定より刊行が遅れているが、近々の発行に向けて着実な編纂作業を継続している。

本誌『楓原』は第一〇号を迎えた。本号には、徳川家達研究の第一人者である原口大輔氏から国士館と渋沢栄一の関係について論稿を得た。また先の若林歴史講演会の講演録も掲載した。

今後とも、国士館史資料室は、学園アーカイブズとして資料の保存・管理を体系化するとともに、資料の公開や展示の充実に努めていく。より一層のご支援とご鞭撻をお願いしたい。

末筆ながら、国士館百年史編纂委員会の副委員長を長年務められた南克之理事が、二〇一八年四月五日に逝去された。享年七四。深く感謝するとともにご冥福をお祈り申し上げる。

二〇一九年三月吉日